

○全体景況（緩やかに改善している）

・生産は、はん用・生産用・業務用機械が半導体関連で好調、電子部品・デバイスが自動車向け分野で好調など、堅調に推移。設備投資は、生産性向上や省力化のための投資で積極的な動き。雇用は、有効求人倍率が高水準で推移。個人消費は、高額商品が好調に推移し、インバウンド消費も引き続き好調。

○生産

・はん用・生産用・業務用機械：

半導体関連や自動車関連工作機械等を中心に東北、関東、東海、北陸、近畿九州で好調。

・電子部品・デバイス：

自動車向けを中心に東北、関東、北陸で好調。

・輸送機械：自動車部品や乗用車等を中心に東海、近畿、九州で好調。

○設備投資

・製造業：設備の維持・更新に伴う投資に加え、受注対応に向けた生産性向上の投資や人手不足対策としての合理化・省力化の投資がみられ、多くの企業で積極的な動き。

・非製造業：小売業の新規出店や既存店舗改装等への投資に加え、一部に人手不足を背景としたと省力化投資への動き。

平成30年1－3月期地域経済産業調査～全体総括(2/2)～

○雇用情勢

- ・製造業：技術職や現業職の不足が継続しており、特に中小企業では人材の確保が困難。短時間勤務の導入、外国人など多様な人材の活用、省力化推進による対策の動き。また、一部で定期給与・賞与の増加や若年層への定期給与の引上げなど賃上げの動き。
- ・非製造業：建設業、小売業、サービス業を中心に様々な業種で人員が不足。生産性向上への取り組みや働き方改革による残業時間削減など労働条件改善の動き。また、一部で人員定着・確保のための賃上げ等待遇改善の動き。

○個人消費

- ・百貨店・スーパー：百貨店は、化粧品や免税品、高額品の売上好調。スーパーは、食料品を中心に堅調に推移。
- ・コンビニエンスストア：カウンター商材や中食向けの総菜等が好調。
- ・ドラッグストア：新店効果に加え、高付加価値商品が好調。
- ・家電大型専門店：白物家電や携帯電話を中心に高機能製品が好調。
- ・乗用車販売：軽自動車は好調も、普通車、小型車はやや低調。
- ・観光：外国人観光客が増加しており、インバウンド消費は引き続き好調。

1-3月期企業の声

企業の主な声

生産

- ・自動車の電子部品数が増えているため、車載向けが好調。(電子部品・デバイス／関東)
- ・車載向けの受注・生産が引き続き伸びており順調。(生産用機械／東北)
- ・海外からの環境機器等の受注が増えており、フル生産を継続中。(はん用機械／九州)
- ・自動車部品が海外向けを中心に好調なことから、緩やかに増加している。(輸送機械／東海)

設備投資

- ・能力拡大投資を計画し、設備の発注を前倒しで行った。(生産用機械／東北)
- ・人手不足解消のために、生産性向上を目的とした追加投資を行う。(はん用機械／関東)
- ・自動で作業する機械設備を導入することで人手不足感を補う。(窯業・土石／東海)
- ・省人化設備を増やすことでコストカットと作業効率のアップを期待。(運送／近畿)

雇用

- ・学生が大手志向に大きく転じ、中小企業の人材確保が益々難しくなっている。(生産用機械／関東)
- ・社内に若手の技術者が不足しており、技術指導のため定年退職者を再雇用している。(非鉄金属／九州)
- ・生産が増加していることから一部の部署において不足感がある。残業が増加。(はん用機械／東海)
- ・パート・アルバイトともに募集をかけても集まらず、引続き厳しい状態が続いている。(スーパー／北陸)

消費

- ・大雪の影響で客数、客単価が落ち込んだが、高額品の動きが続き、低迷していた衣料品にも動きがみられる。(百貨店／北陸)
- ・2月の春節ではインバウンド客が大幅に増加。(百貨店／近畿)
- ・携帯電話が好調であり、白物家電も引き続き堅調に推移している。(家電量販店／四国)
- ・一部の無資格検査問題の影響は薄れ、回復傾向。(乗用車販売／東北)
- ・一手間省ける加工商品を買う人が増加したことから、客単価、販売価格が増加した。(スーパー／沖縄)

最近のトピックス

- ・アジア圏を中心とする外国人観光客の増加から、ホテルの予約が好調。(ホテル／北海道)
- ・米国の鉄鋼輸入制限や現地生産を求める動きが気になる。(輸送用機械／近畿)
- ・1-3月期はインフルエンザが流行し、乳酸菌関連商品やマスク、風邪薬等が良く動いた。(ドラッグストア／九州)

北海道

<p>全体景況</p>	<p>〈持ち直している〉 生産は、ビールの増産などから、持ち直しの動きがみられるものの、包装用紙の減産など一部に弱い動き。個人消費は免税売上や飲食料品が堅調で持ち直し。観光は外国人客増で好調。</p>			
<p>個別の動向 <small>(企業の声及び統計指標から作成)</small></p>	<p>○生産は、持ち直しの動きがみられるものの、一部に弱い動き。 ✓ 値上げ前の駆込需要からビール、海外向け需要増から化学機械が増産するなど、持ち直しの動きがみられるものの、一部に弱い動き。 ✓ 生産設備のトラブルによる操業停止から包装用紙が減産。</p> <p>○設備投資は増加している ✓ 29年度は、生産能力増強投資や人手不足対策としての省力化・合理化投資から、製造業・非製造業ともに前年度比で増加。 ✓ 製造業では、食料品や輸送用機械で工場の新設や生産設備の増強投資等。 ✓ 非製造業では、小売で新規出店や物流施設の新設。ホテルの新設等。</p> <p>○雇用情勢は改善している ✓ 有効求人倍率は、長期にわたり改善。 ✓ 一方、職種による雇用のミスマッチにより、建設、観光、製造、小売で現場の従業員が不足。 ✓ このため、高齢者、女性、派遣社員の活用に加え、中途採用を実施。また、休日の増加、労働時間の短縮、賃上げ、正社員への登用等により待遇改善を図り、人員を確保。</p> <p>○個人消費は持ち直している ✓ 百貨店は、化粧品等の免税売上や国内富裕層向け高級ブランド品が好調。スーパーは、飲食料品が引き続き堅調。 ✓ コンビニエンスストアは、カット野菜や温かい麺類、ドラッグストアは、化粧品やマスク、カイロが好調。 ✓ 新車販売は、安全性能の高い軽自動車为好調なものの、普通乗用車、小型乗用車に無資格検査問題の影響があり、全体で減少。 ✓ 観光は、国際線の増便に伴う外国人観光客の増加などから、引き続き好調。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 <small>(H22=100) <small>※季節調整値</small></small></p> <p style="text-align: center; background-color: #cfe2f3;">95.5(97.0)</p>	<p>有効求人倍率 <small>※季節調整値</small></p> <p style="text-align: center; background-color: #f4cccc;">1.19(1.15)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center; background-color: #f4cccc;">1.7%(1.4%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center; background-color: #f4cccc;">2.3%(2.2%)</p>

※指標はすべて2月の数値、括弧内は11月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。4

東北

<一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している>

全体景況

生産は車載電子部品、半導体関連が高水準で持ち直しの動き。雇用情勢は、改善している。個人消費は、積雪などの影響もあって足踏み状態。

個別の動向
(企業の声及び統計指標から作成)

○生産は持ち直しの動きとなっている

- ✓ 電子部品・デバイスは、車載向けを中心に高水準。
- ✓ 生産用機械は、半導体関連、自動車向けで高水準。
- ✓ 輸送機械は、国内自動車市場低迷により弱含んでいる。
- ✓ 情報通信機械は、民生用機器により弱い動きが継続。
- ✓ 生産の先行きは、「変化なし」とする見通しが多い。

○設備投資は緩やかに持ち直している

- ✓ 前期調査時点からの計画変更は少なく、9割弱の企業が前期時点と「変更なし」としている。
- ✓ また、新工場への設備購入のため増額、競争力強化にともない設備投資を増額、生産能力拡大を計画し設備の発注を前倒しで行っている、との企業の声があった。

○雇用情勢は改善している

- ✓ 平成30年2月の有効求人倍率は1.51倍、新規求人倍率は2.05倍となっており、それぞれ、高水準となっている。
- ✓ 雇用者の過不足判断では、「不足」とした企業が前期とほぼ同様に、約6割となり人手不足感が顕著。
- ✓ 人員不足に関しては、人手不足等により一部商品の販売を休止した、外国人技能実習生に支えられている、パート・アルバイト中心にほとんど応募がない等の声が上がっている。

○個人消費は足踏み状態となっている

- ✓ 百貨店・スーパーは、百貨店の高額品や飲食料品などで動きがみられるが、衣料品がふるわず、また積雪の影響などにより全体としては横ばい圏。
- ✓ コンビニエンスストアは、このところ弱含んでいる。またドラッグストアは、新店効果などにより堅調。
- ✓ 新車販売は、無資格検査問題の影響から回復傾向。
- ✓ 売上金額の先行きについては、「上昇」とする企業が多い。

関連指標

鉱工業生産指数
(H22=100)
※季節調整値

有効求人倍率
※季節調整値

百貨店・スーパー
販売額(前年同月比)

コンビニエンスストア
販売額(前年同月比)

98.0(99.2)

1.51(1.49)

▲0.7%(▲0.4%)

▲0.5%(0.5%)

※指標はすべて2月の数値、括弧内は11月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。 5

全体景況

〈改善している〉

生産は、一般機械等が好調で持ち直しの動き。雇用情勢は、着実に改善。個人消費は、百貨店で中間層の消費マインドの回復感が続いているなど持ち直し。

○生産は持ち直しの動きがみられる

- ✓ 輸送機械は、円高や原材料の価格上昇の影響があるものの、SUV等の人気車種が好調であることから、生産は堅調に推移。
- ✓ 一般機械及び電気機械は、半導体製造装置関連など設備類の需要が堅調に推移しており、生産は増加傾向。
- ✓ 電子部品は、自動車、産業機器向け等の分野で好調。
- ✓ 鉄鋼業は、国内自動車向け需要が堅調。オリンピック・パラリンピック関連の需要がみられたとの声も聞かれた。

○設備投資は前年度を上回る見込み

- ✓ 製造業では、当初計画どおりとの声が多数を占める。中小企業を中心とした一部では、継続する好調な受注や人手不足を背景に、生産能力の増強や生産性向上を目的とした設備投資を前倒し・追加するとの声も聞かれた。
- ✓ 非製造業では、新規出店や店舗改装等、当初計画どおりとの声が多数を占め、計画変更はほぼみられない。

○雇用情勢は着実に改善している

- ✓ 製造業では、引き続き技術職や経験者及び現業部門における人員が不足。人材の確保が難しい状況。定期給与・賞与の増加や若年層の定期給与の引上げなどの動きもみられる。
- ✓ 非製造業では、技術者や小売業でのアルバイト等が不足しており、人材の確保が難しい状況。生産性向上への取り組みや働き方改革による残業時間削減など労働条件改善の動きもみられる。

○個人消費は持ち直している

- ✓ 百貨店では、化粧品、高額商品が引き続き好調。寒さの厳しい日が続く、春物衣料の動きが鈍かった半面、冬物衣料は品不足感の声も聞かれるなど好調。中間層の消費マインドは回復感が継続との声。インバウンドは堅調。
- ✓ スーパーでは、低価格志向が続いているが、食料品を中心に堅調に推移。
- ✓ コンビニエンスストアは、客数減を客単価で補う状況が継続。天候の影響等から、より近場に立地する利便性を好み来店する消費者も多かったとの声が聞かれた。
- ✓ 乗用車販売は、普通車・小型車がやや低調なものの、軽自動車は新型車効果により引き続き好調。

個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)

関連指標

鉱工業生産指数
(H22=100)
※季節調整値

97.4(97.1)

有効求人倍率
※季節調整値

1.60(1.60)

百貨店・スーパー
販売額(前年同月比)

0.9%(1.4%)

コンビニエンスストア
販売額(前年同月比)

1.6%(2.1%)

中部(東海)

<p>全体景況</p>	<p>〈改善している〉 生産は、輸送機械、電子部品・デバイスが緩やかに増加。個人消費は、コンビニエンスストア、ドラッグストアなどが堅調であることから、緩やかに持ち直し。</p>
-------------	--

<p>個別の動向 <small>(企業の声及び統計指標から作成)</small></p>	<p>○生産は緩やかに増加している。 ✓ 主力の輸送機械は、自動車部品が海外向けを中心に好調なことから、緩やかに増加。 ✓ 電子部品・デバイスは、スマートフォン向けを中心に緩やかに増加。 ✓ 金属工作機械は、部品不足の影響がみられるものの高水準で推移している。国内は、自動車・半導体製造装置向けが好調。海外は、中国向けが自動車や半導体関連に加えて省人化対応への需要が高い。</p> <p>○設備投資は増加している。 ✓ 製造業は、合理化・効率化投資や維持・更新に加え、自動車部品やファインセラミックスでは新製品対応や能力増強の動き。大企業、中小企業ともに、投資意欲が高い。非製造業では、ドラッグストア、スーパー、コンビニエンスストアで新規出店や改装の動き。 ✓ 製造業・非製造業ともに、人手不足を背景とした省人化投資への動き。</p> <p>○雇用情勢は着実に改善しており、労働需給の引き締まりがみられる。 ✓ 製造業では、大企業は不足感が緩和しているものの技術者を求める声が多く、中小企業では不足感が継続。非製造業では、百貨店、スーパー、コンビニエンスストアなどの小売業で非正規社員などの不足感が継続しており、募集をしても人が集まりにくい状況。 ✓ 製造業・非製造業ともに、企業内託児所の設置など働きやすい環境づくりへの取り組み。</p> <p>○個人消費は緩やかに持ち直している。 ✓ 百貨店は、催事による効果がみられ、高額品や飲食料品に動き。インバウンド消費は、引き続き好調に推移。スーパーでは、生鮮野菜、鮮魚などの高値が続く中、気温の低下に伴い鍋商材や防寒商品に動き。 ✓ コンビニエンスストアでは、カウンター商材、中食が好調。ドラッグストアでは、化粧品や医薬品の好調が継続。家電販売店では、季節空調などが好調。スーパー、コンビニエンスストア、ドラッグストア、家電販売店、ホームセンター間の競争が激化。</p>
---	--

<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 <small>(H22=100) ※季節調整値</small></p> <p>117.4(119.1)</p>	<p>有効求人倍率 <small>※季節調整値</small></p> <p>1.86(1.83)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p>0.2%(1.1%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p>0.3%(▲0.2%)</p>
-------------	--	--	---	--

※指標はすべて2月の数値、括弧内は11月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

中部(北陸)

全体景況

〈改善している〉

生産は、電子部品・デバイス、化学を中心に高水準で推移し、個人消費は、大雪の影響から来客数が減少したものの、緩やかに持ち直している。

○生産は高水準で推移している

- ✓ 電子部品・デバイスは、スマホ向けは落ち着きがみられるものの、自動車向けなどが好調で高水準を維持。
- ✓ 化学は、新薬の減少傾向が続いているものの、ジェネリック医薬品や受託製造が増加し高水準で推移。
- ✓ はん用・生産用・業務用機械は、繊維機械など一部に弱い動きがみられるものの、海外向け中心に半導体製造装置や自動車向け工作機械などが好調で、全体では堅調に推移。
- ✓ 繊維は、産業資材が堅調に推移しているが、衣料は厳しい状況が続いており、全体ではおおむね横ばい。
- ✓ 金属製品は、住宅着工の伸び悩みなどからアルミ建材の動きが弱く、弱含み。

○設備投資は増加している

- ✓ 製造業は、生産能力増強や新製品対応に加え、I o T設備などの生産性向上を目的とした投資も積極的に行われている。
- ✓ 非製造業は、新規出店や店舗改装に加え、人手不足に対応した投資を行う動きもみられる。

○雇用情勢は着実に改善しており、労働需給の引き締まりがみられる

- ✓ 製造業は、生産が増加している企業は、人材確保に苦勞しており、派遣社員で募集したいところを正社員採用としている企業もみられる。人材不足の対応として、生産性向上に取り組む動きがみられる。
- ✓ 非製造業は、慢性的な人手不足により、企業側にとって雇用者の確保が困難な状況は続いており、高齢者の採用などで対応する動きもみられる。

○個人消費は緩やかに持ち直している

- ✓ 百貨店は、富裕層の動きは引き続き良く、低迷していた衣料品にも春物を中心に動きがみられるものの、大雪の影響もあって客数が大幅に落ち込んだ。
- ✓ スーパーは、競争に加え、大雪の影響などから客数は減少傾向となっているものの、野菜の相場高や大雪によるまとめ買いなどから客単価は上昇している。
- ✓ コンビニエンスストアは、競争などから客数は減少しているものの、夕食需要の増加などから客単価は上昇し、ドラッグストアは、食料品中心に好調な動きが続いている。

個別の動向
(企業の声及び統計指標から作成)

関連指標

鉱工業生産指数
(H22=100)
※季節調整値

128.4(128.1)

有効求人倍率
※季節調整値

2.01(1.88)

百貨店・スーパー
販売額(前年同月比)

▲0.9%(▲0.3%)

コンビニエンスストア
販売額(前年同月比)

1.1%(0.1%)

※指標はすべて2月の数値、括弧内は11月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。8

全体景況

〈緩やかに改善している〉

生産は、はん用・生産用・業務用機械、電気機械を中心に横ばいながら高水準で推移。個人消費は、免税品や富裕層による高額品購入の動きが好調なことや、高機能・高単価の白物家電などが好調なことから緩やかに改善している。

○生産は横ばい傾向

- ✓ はん用・生産用・業務用機械は、海外向け自動立体倉庫装置が好調。
- ✓ 電気機械は、車載用をはじめとするリチウムイオン蓄電池が高水準で推移。
- ✓ 電子部品・デバイスは、中国向けスマートフォン用部品が減少。
- ✓ 輸送機械は、国内向け乗用車、自動車部品ともに堅調。
- ✓ 総じて生産は高水準で推移しているが、生産ラインをフル稼働しても受注に追いつかないとの声や、受注は好調だが部品の確保が難しいとの声も聞かれる。

○設備投資は増加している

- ✓ 製造業では、設備の維持・更新や生産能力の増強を中心に多くの企業で当初計画どおり設備投資が実施されている。また、一部の企業では生産能力を向上させるための追加投資や人手不足を補うための自動化への投資がみられる。
- ✓ 非製造業では、倉庫をはじめとする物流施設への投資や、小売業で需要拡大のための新規出店や店舗改装がみられる。

○雇用情勢は改善しており、労働需給の引き締まりがみられる

- ✓ 人手不足が続いている。小売業やサービス業を中心にパート・アルバイトの確保が困難であり、また製造業を中心に技術者や有資格者が集まりにくいとの声が多く聞かれ、事業への影響も懸念されている。
- ✓ 対策として、時給アップ、短時間勤務の導入、女性の活躍、外国人など多様な人材の活用、省力化の推進がみられる。
- ✓ 賃金は、人材確保のためのベースアップや定期昇給の実施がみられる。

○個人消費は緩やかに改善している

- ✓ 百貨店は、免税品や富裕層による高額品の購入が好調、低気温で伸び悩んだ春物衣料も足下では回復傾向。スーパーは、総菜類が好調だった食料品が堅調。コンビニは客単価の上昇などから引き続き好調。
- ✓ 家電は、高機能・高単価の白物家電に加え、買い換え需要が発生した携帯電話やゲーム機販売が好調。乗用車は、新型車効果も一巡し、小型車を中心に減少。
- ✓ インバウンド消費は好調を維持。

個別の動向

(企業の声及び統計指標から作成)

関連指標

鉱工業生産指数
(H22=100)
※季節調整値

105.3(108.9)

有効求人倍率
※季節調整値

1.55(1.53)

百貨店・スーパー
販売額(前年同月比)

▲0.1%(1.7%)

コンビニエンスストア
販売額(前年同月比)

2.2%(2.3%)

中国

全体景況

〈持ち直している〉

生産は、自動車など主要業種が堅調に推移し全体として横ばい。個人消費は、高機能・高付加価値商品や季節商材の好調により持ち直しの動き。

○生産は横ばい

- ✓ 鉄鋼は、フル操業が続き、やや増産。
- ✓ 化学は、定修明けでやや増産。
- ✓ 自動車は、一部車種の生産が増え堅調で横ばい。
- ✓ はん用・生産用・業務用機械は、受注好調で、横ばい。
- ✓ 電子部品・デバイスは、一部需要の落ち込みもみられるものの、堅調で横ばい。

○設備投資は持ち直している

- ✓ 製造業では、引き続き受注増加への対応に向けた能力増強、省力化設備の導入、既存設備の維持更新が進められている。
- ✓ 非製造業では、引き続き新規出店、既存設備の維持更新が進められている。
- ✓ 平成30年度にも、同様に設備投資が計画されている。

○雇用情勢は着実に改善しており、労働需給の引き締まりがみられる

- ✓ 正社員・パートを問わず、製造業では現業職や技術職、非製造業では販売員やドライバーなど様々な職種で人員不足の声が聞かれる。
- ✓ 従業員やパートの定着・確保のため賃上げを実施したとの声も聞かれた。

○個人消費は持ち直しの動き

- ✓ 百貨店では、厳しい寒さと冬季オリンピックにより客数が減少したものの、化粧品やインバウンドは好調が続いている。
- ✓ スーパーでは、節分の恵方巻きやバレンタインが好調で、野菜や果物も相場高により売上げを伸ばした。
- ✓ ホームセンターでは、灯油の価格上昇や商品単価の上昇により売上げが増加した。
- ✓ 家電大型専門店では、暖房関連機器や大画面・高画質テレビなどの高機能・高付加価値商品が好調。
- ✓ ドラッグストアでは、大容量・高付加価値商品が選ばれており、好調が続いている。

個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)

関連指標

鉱工業生産指数
(H22=100)
※季節調整値

98.7 (102.4)

有効求人倍率
※季節調整値

1.81 (1.77)

百貨店・スーパー
販売額(前年同月比)

▲0.3 (1.5)

コンビニエンスストア
販売額(前年同月比)

1.5 (1.9)

※指標はすべて2月の数値、括弧内は11月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。10

全体景況

〈緩やかに持ち直している〉

生産は、パルプ・紙・紙加工品、はん用・生産用機械などが需要堅調で、緩やかな持ち直しの動き。個人消費は、飲食料品で総菜や冷凍食品が堅調に推移し、持ち直しの動き。

○生産は緩やかな持ち直しの動き

- ✓ パルプ・紙・紙加工品は衛生用紙などが、電気機械は光電変換素子などが、それぞれおおむね堅調な外需に支えられ、引き続き高水準で推移。
- ✓ 食料品は業務用調味料や家庭用冷凍食品などが、プラスチック製品は汎用フィルム製品や光学フィルム製品などが、それぞれ需要好調、はん用・生産用機械は自動車部品、産業機械部品が需要堅調であるなど、持ち直しの動き。
- ✓ 輸送機械(造船)は、受注に改善の兆しがみられるものの、依然、操業度に変化がみられないなど、一部に弱い動き。

○設備投資は緩やかな持ち直しの動き

- ✓ 平成29年度の設備投資は、製造業のプラスチック製品、はん用・生産用機械、電気機械などでは増産・新規受注対応といった積極的な投資計画が多く、非製造業の小売では、引き続き店舗の新設や改装などの前向きな計画もみられた。

○雇用情勢は改善している

- ✓ 製造業・非製造業ともに、多くの事業所で雇用者数の不足がみられる。特に、小売や建設においては、事業の拡大を背景にその傾向が顕著。
- ✓ 人手不足感が強い事業所では、新規採用の拡充や中途採用の募集、派遣の活用などのほか、賃金などの処遇面での改善もみられる。このほか、働き方改革の一環で残業時間縮減などの意識は高まっているものの、やむなく残業増で対応する事業所もみられる。

○個人消費は持ち直しの動き

- ✓ 百貨店は、化粧品や高額品に動きがみられたものの、主力の衣料品は低調に推移。スーパーは、主力の飲食料品で総菜、冷凍食品が堅調に推移した。コンビニエンスストアでは、カウンター商材や調理麺などの温かい商品が好調であった。
- ✓ 家電販売は、携帯電話が伸び、4Kテレビや白物家電の高単価商品は堅調。乗用車販売は、軽乗用車に持ち直しの動きがみられるものの、新車効果の一巡から持ち直しの動きに一服感。

個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)

関連指標

鉱工業生産指数
(H22=100)
※季節調整値

95.5(100.3)

有効求人倍率
※季節調整値

1.53(1.52)

百貨店・スーパー
販売額(前年同月比)

1.1%(2.0%)

コンビニエンスストア
販売額(前年同月比)

0.5%(1.3%)

全体景況

〈緩やかに改善している〉

生産は、一服感がみられるものの高い水準を維持している。設備投資は、増産に向けた投資及び新規出店への投資がみられる。個人消費は、衣料品等の動きは鈍かったものの高額品及び化粧品等の動きは堅調。

個別の動向
(企業の声及び統計指標から作成)

○生産は横ばい傾向

- ✓ 輸送機械は、一部に生産調整の動きがみられたが、全体としては需要期に向けて生産を増やしている。電子部品・デバイスは、スマートフォン向けを中心に生産に一服感がみられる。
- ✓ 素材関連は、化学は電子部材向けに、鉄鋼は自動車、建材、プラント装置向けに好調な生産が続き、石油・石炭も需要増加に伴って生産を増やしている。
- ✓ 電気機械は、自動車及びスマートフォン向けの受注が好調で増産しつつも、一部では原材料の値上がり等により収益を押し下げている。

○設備投資は増加している

- ✓ 製造業では、国内外の受注に対応するための増産に向けた投資及び新分野への投資がみられた。
- ✓ 非製造業では、ホテル及びマンションの新規建設や増築、店舗の新規出店等の投資がみられた。

○雇用情勢は改善している

- ✓ 有効求人倍率が過去最高の水準で推移しており、製造業、非製造業ともに人材不足が慢性化。
- ✓ 製造業では、技術者OBを雇用する企業、中途採用を進めるも苦慮している企業が見られた。
- ✓ 非製造業では、元旦営業の取り止めや年休の繰り越し日数を撤廃したスーパーや、館内清掃等の人手不足により営業の継続を懸念する宿泊業の声も聞かれた。

○個人消費は持ち直している

- ✓ 百貨店では、気温が平年よりも低く推移したため入店数が減少して衣料品等の動きは鈍かったものの、宝飾・貴金属等高額品及び化粧品等の動きは堅調。2月の春節ではインバウンド客が大幅に増加。
- ✓ 家電販売は、4Kテレビや冷蔵庫、洗濯機等大型で単価の高い商品の動きが良く、高い水準のまま推移。
- ✓ 住宅関連は、景気の安定や株高等を背景に一部には好調がみられるものの、全体の着工戸数は弱含んでいる。

関連指標

鉱工業生産指数 (H22=100) ※季節調整値	有効求人倍率 ※季節調整値	百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)	コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)
108.7(109.7)	1.47(1.46)	0.8%(2.6%)	3.0%(2.4%)

※指標はすべて2月の数値、括弧内は11月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

※コンビニエンスストア販売額(前年同月比)は、九州・沖縄の数値。

<p>全体景況</p>	<p>〈改善が続いている〉 管内の観光客数の増加、雇用環境の改善等を背景に、個人消費は改善が続いている。また、設備投資も持ち直している。</p>
-------------	---

<p>個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)</p>	<p>○生産は横ばいとなっている ✓ 鉱工業生産指数は管内の主要な製造業である食料品工業等で減少は見られるものの、ヒアリングにおいては変化なしとの声が多い。 ✓ 短期、長期の見通しでは、需要増等の理由により増加との回答が多い。</p> <p>○設備投資は持ち直している ✓ 平成29年度の設備投資額は製造業が減少しているが、非製造業が増加しており、全産業で39.4%増で前期より更に増加している(前期:38.3%増)。一部には、大型団体客の受け入れに伴う混雑を解消するため、宿泊施設の拡張工事を行ったとの声が聞かれた。 ✓ 平成30年度の設備投資額は、高い水準で推移していた非製造業が前年度より減少しているが、製造業は前年度より増加している。</p> <p>○雇用情勢は改善が続いている ✓ 有効求人倍率は、全国と比べ差があるものの1倍以上を維持しており堅調に推移している。 ✓ ヒアリングにおいても、7割以上の事業者が人手が不足していると回答しており、雇用需要の増加を要因とした人手不足が続いている。 ✓ 賃上げ、IT導入等による生産性向上や正社員化等に取り組んでいる企業も見られる。</p> <p>○個人消費は改善が続いている ✓ 百貨店・スーパーを中心に堅調に推移している。 ✓ 全体的に、客数、客単価とも増加傾向。一部には、価格が高くても調理の手間が省ける加工食品の売り上げが増えているとの声が聞かれた。また、ホテルの客室単価も10ヶ月連続で前年同月を上回っている。 ✓ 観光は、各種イベントが多く、個人旅行等の販売実績が好調であったことや、クルーズ船の寄港回数が引き続き増加したこと等により、入域観光客数が65ヶ月連続で前年を上回るなど堅調に推移している。</p>
-----------------------------------	---

<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 (H22=100) ※季節調整値</p> <p style="text-align: center; color: blue;">91.1(103.6)</p>	<p>有効求人倍率 ※季節調整値</p> <p style="text-align: center; color: blue;">1.14(1.14)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center; color: blue;">4.4%(6.6%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center; color: red;">3.0%(2.4%)</p>
-------------	---	---	---	--

※指標はすべて2月の数値、括弧内は11月の数値(鉱工業生産指数は1月、括弧内は10月)。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

※コンビニエンスストア販売額(前年同月比)は、九州・沖縄の数値。